

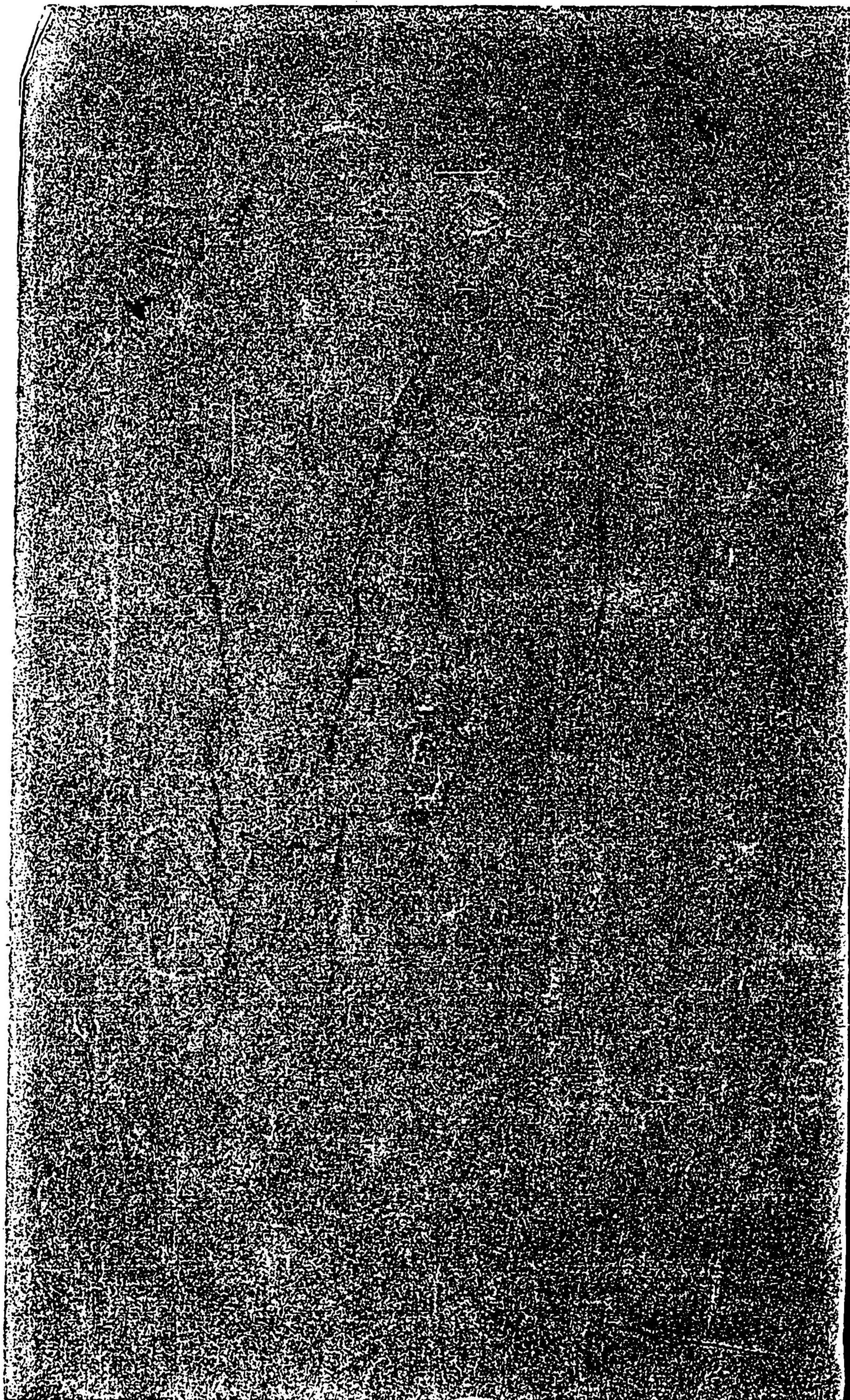
111
乾
57

祖父恩

鐵錘居
題

東 京 圖 書 館				
二	五		一	
冊	七	架	函	類
	號		兩	門

乾



文
為
體



平子

口
平子

丁
子
子

子
子



階、景仁八歳す。一して、屬文十三歳のし。一
徧讀諸史五世、尾上梅幸十歳に。一して、
孤となり十三歳。一して、如く祖父の天役ヲ
仲とむ時人、咸謂再生菊家瑞む。魚成ハ
名を繼ぐと云う。世々、轉じとす。梅幸ハ
と茲梅壽佛ヲ治、照忘り、あやめ、人をもと
柳宿のあ、他一を、無一。一して、花のこころを
な、血、四方、が、宿の、あり、り、ひ、き、よ、わ、ら、り、得、て

手向のありし、世々、向と集の、歌を、流、る、その
お、を、猶、心、と、寒、ま、ま、と、意、あ、る、り、し、ま、ま、と、
を、し、る、神、も、あ、る、の、ゆ、か、り、の、よ、お、は、ら、り、と、
お、招、入、り、あ、の、何、も、な、り、何、も、な、ら、ず、と、歌、の、
落、し、あ、ま、あ、し、

世の中、八、の、つ、と、し、何、れ、も、な、ら、ず、あ、ら、う、と、
ん、と、戀、し、あ、ら、う、と、な、ら、う、と、何、れ、も、な、ら、ず、
あ、ら、う、と、な、ら、う、と、彼、十、三、の、の、こ、ろ、を、き、し、た、か、ら、あ、ら、
譽、ら、う、の、の、お、い、し、さ、う、と、な、ら、う、と、あ、ら、う、と、

心いりて多し中より一と河竹其状
 丹田を以て 孝經思重のちりり
 做し乾坤し丹田ふちりり
 追慕り意を以て表ふ余深感心其意為供養
 香多し

晋公柳



為梅壽居士菩提授與外孫寺嶋清
 高野山金剛峯寺法統推大教正前長者快極

嘉永二年己酉閏四月廿四日

榮松院釋菊芳梅觀居士 行年六十六

藥遠州掛川驛廣樂寺



追福寺仙

祖父の恩さく下菊乃白ひり

ひろいさくく月のお歌

初瀬江江入江の寛き

とひくたうくとま家並し

梨子棚かしのまゆか小菊並

水はうして水揺る瓶

り灯の破きさくはる比叡あり

片まの薬師くまるとは

永檜

梅章

春湖

控

章

郎

控

章

追福寺仙の筆

追福寺仙

追福寺仙

追福寺仙

追福寺仙の筆



よのひのたのむる者の縁る色
機屋つゝもの旬の後を
郭ち柄おき時を啼き響の
月のなみけり暑いそめら
箱棟の所のくさきの檀所を
菌屋こぼれ所の廣く乳
才りまぐ峰八中し只ひとり
持口りけり糧を喰ひ
争くも杭ある世のもち堤
海よりまきの路へひそつて

湖 幸 於 湖 幸 於 湖 幸 於 湖 幸 於 湖

赤替し夏待色の竹簀の子
白眼之助の記ハ誰かつち
早道のめく事ハ付授もこ
ゆえつまわりき雪の推け果
こぬお馳走のやうに建つて
後世この世の世のやうに袖
よみ賣つゝいさゝか昔くら
間の歌をわきよみ小塚原
引越し井戸の自由の虎
常ハ鈍みのいさゝか楽師

湖 幸 於 湖 幸 於 湖 幸 於 湖 幸 於 湖

यांचित्तयापि सततं ययि सा वरका
 साचासपिच्छति जदं स जने उर्यसक्तः
 अस्य कृतं च परितुद्यति काचदया
 धक्तां च तं च मकने च इमां च मां च

印度人南昌德拉者自云世尊同鄉
 生也予逢之于俄京一日為予以天竺國
 古文書世尊棄世之詩寺嶋潔氏
 以今茲當其亡祖父尾上菊五郎三十
 三回忌乞予一言予則複寫以與之
 如其讀音則以邦字記之恐失其
 真也

明治四年五月下澣梁川居士

讀音
 イヤム、チンタヤ、ミ、サタム、マイ、サ、
 本ニヤ、ミツ、チユテ、ギナム、サ、
 子エ、アンニヤ、サクタハ、アスマット、ク、
 エテ、パリツシヤ、テ、カー、チ、ダンニヤ、
 タム、チヤ、マ、タ、ナム、チヤ、イ、マン、チヤ、マ、
 ン、チヤ、

在品のかの店を有るは
 川邊里の成し^{ナリ}の武藏
 卯五すまのり^{ナリ}色赤紙
 誘ひの^{ナリ}廣の^{ナリ}又合也
 心^{ナリ}の^{ナリ}練の^{ナリ}角
 心^{ナリ}の^{ナリ}花の^{ナリ}日^{ナリ}の^{ナリ}盛
 心^{ナリ}の^{ナリ}春の^{ナリ}の^{ナリ}

湖 於 幸 湖 於 幸 湖 於 幸 湖

追遠

梅の白粉もいふさへく暮の遠
花咲しりまればあまの心草

芝翫
霞仙

何れ教の羅漢あつたる堂

莛外

雨をまじりて井戸見ふくらの雨

外橋

とねつこも亦暗する新茶の

外若

と宵照る雪物ゆり焼耐火

棋園

いざゆしてさるや扇の筆の取

相助

珠玑あまのり八房のこころ

書外

青梅やそはあまのこころの香

香雀

芽の赤珠すかた古柏

赤瀾

幽天の音あまの心草

竹松

若咲のつるを音羽の滝乃色

杜若

君子のふもよき各咲色

三外

植付古根の強民と竹

是好

多岐くは會釈のすなはち
 所の因り持てし清蓮の心
 心と出て啼音の理の如し
 一助の道なきもの夏雲の
 毛前や草のさちの初雲
 青梅の供物の影の中
 伸の月の夜也の柳
 あつちの清くさき清水に
 何とあつて袴着るや文衣

尾立
 梅三郎
 音丸
 春丸
 幸水
 梅之助
 竹三郎
 新助
 可景

焼香の招きの音に扇の形
 中堂の幕張し河の桐の影

斧丸
 喜三郎

菩提樹の梢を啼るはあは
 経のすれ乃しあつ甲斐の
 花の心知誓の舟の蓮の心
 寺塔の十のや松の心
 遠く國の扇の音羽山
 年月の夏まの心
 郭の声の川

金咲
 進三
 幸治
 繁造
 梅流
 金治
 能進

東結ふ清水水四葉の梅

昌中

豊州

菊のよもは夏うりの尺名題

花柳

壽輔

紫陽花のわら輪の紋ハワサキ足
爪琴のゆき音のしはは雨

兼之助
多見藏

繪まゆにささるぬるし
昨百念の跡のなほ向州
早しやうきさしよこの唄
茂る可中の一爪抱柏
帷子のよもは夏うり重

高賀
多座盛
歌山
三猿
秀鶴

形代の屋の風り吹日

鶴童

魂ハ西方の天ニ飛去リ
魄ハ東海の地ニ止リ
梅壽居士の追善也

猫石と形しし三十三回忌
よと成りし子五十三次

何行
其水

驚書破江南夢一場醒
来多處不春光可憐
水月朧明夜踈影橫
斜送暗香

詠梅

確堂叟



山似柔

確壺

心似水

素心自淡也

如人

手似水

心似水
如人



水相淡，市常門風留

都過遠却寫露新

詩見梅新一箇明月又

黃昏

於西亭寫作





圖
 美山晚响

日楚徐

和字子生寫

子柔澄卷台

無窮



抱雪懷冰四

十年

雷煌墨戲

雷

梅新早 梅新早春初占花魁得陽氣之
 最先者小陽春後至臘月開花寫
 法多墨梅先從幹起枝交女窠
 如龍勁如鐵長如箭短如戟老用
 工辨六者 六者雙層圈法須圓方
 圓則尖則類桃長則如杏貴合
 不貴於宜稀不宜繁世錄鄭能常
 花梅總論

雲烟外史



桃李莫相妬 天
 安元不同 猶餘
 霜雪態 未肯
 十分紅 蘭晴



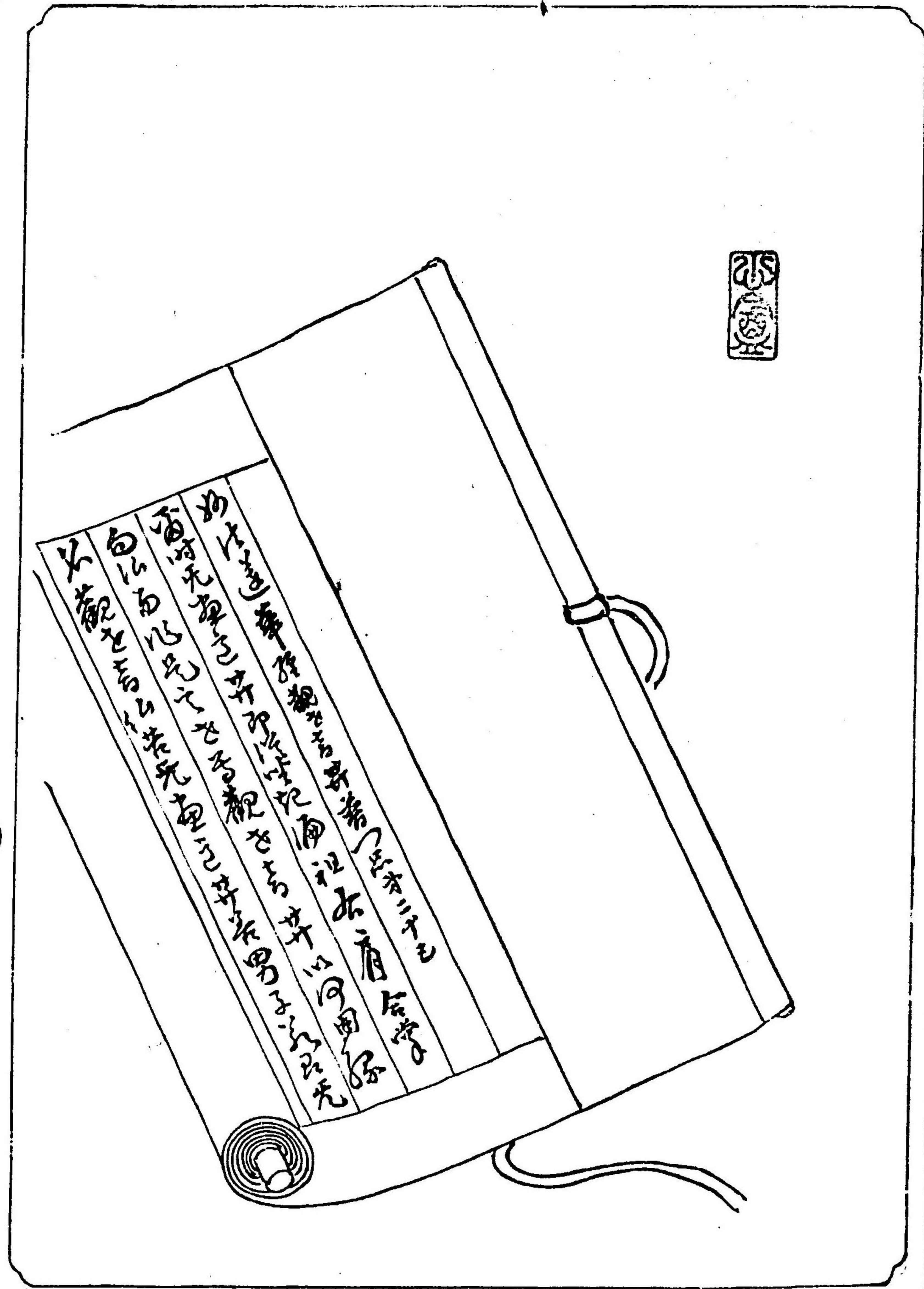


香元百卉媚不及
此逸芳

豫堂



去年の梅幸の
祖父は遠福の
色も香も
また年の末に
見ると
去年の梅の



如大德也... 白心... 公...
如大德也... 白心... 公...
如大德也... 白心... 公...
如大德也... 白心... 公...
如大德也... 白心... 公...
如大德也... 白心... 公...
如大德也... 白心... 公...
如大德也... 白心... 公...
如大德也... 白心... 公...
如大德也... 白心... 公...



青...
青...
青...

明治十四年夏
叔梅章一頁福

有友才子



追善堂一頁文略

梅を實のこぼして生く哉の家
芳しき圓居や夏の菊あり
手向まの三十三圓の郭一ち
夏涼しきの寺宿のつらね
夏菊の房内をぬく眼のま
時の夏居を扇のま向ふ
くらみのつら陽と青い夏

尋香
昂也
雪笠
源梓
宇山
成雅
完略

早起のころのあけの蓮の花
まじりのまよや夢の土用ほ
杜鰓啼の初秋の西の空
香の各平の味をくちの都
佐花のなほの扇の
花摘やまよふのふか
あまのまのの舞の舞の
かみの出の梅のふさや夏
まよひの道春をまよふ
その折のまよひて昔の花

了つ雄
富水
大喬
素水
吳仙
精知
玉平
苗叟
花舞
採花

退福

若芽のく柳の枝の葉の中
鐘の音の遠くをよめたの
訪ふのゆきし梅の色し
大木はわきまのよ景原
花の山をぬりての遠あり
あまのまのまよひの杜
根をまよひて昔の花

房香
關水
苗歌
不角
小窗
文房
徐来

麦赤きしはちま田のふらふ

田下 麦場

古寺阿保院佛堂のよんきし

なまこぬくもつしの阿保院のふらふ

三世 梅屋

あつ何れく梅のふらふ 夏林

百華 了悦

あつ何れく梅のふらふ

茶の色は松をぬくし 風船

八百善 柏お

夏菊乃照ふるをけぬちのふ

戸の笠の佐七尋ねん音祭

六三連

砂燕

飛巾や松乃葉の歌風

高熨

花の香は根株つらつら 菊も者

見連

柳美

あつ何れく末廣のふらふ

住無忌

あつ何れくあつ何れくあつ何れく

水魚

十足

紅の花は白の白のふらふ

榮中

是等の中へ一本の初梅

一歩

白葉やあつ何れく花の艶

光賀

こもりの花のさかすかに盛る菊の畑
煙をくんで居る扇のしずく
空をくぐり音のほろり
梅のさかすかに昔のつぼみ
可成りおかし扇の思ひ
構えり字のついでに夏書
虫のしずくはさかすかに菊の袖
蓮池の音のさかすかに
糸のさかすかに
竹の子の梅をさかすかに男根

種子

米塘

梅知

綾質

扇高亭

交茶

竜吟

藍泉

只誠

希川

母音

お

お

二

百無のさかすかに梅の上のつぼみ

土蜘蛛のさかすかに梅の上のつぼみ

あまのさかすかに梅の上のつぼみ

家の風をさかすかに梅の上のつぼみ

あまのさかすかに梅の上のつぼみ

似と親りついでに梅の上のつぼみ

煙のさかすかに梅の上のつぼみ

香盆のさかすかに梅の上のつぼみ

蓮のさかすかに梅の上のつぼみ

松呂

三浦

縁堂

指直

華谷

孝節

柳一

素直

貫直



短おのりゝぬゆゑ〜伽羅家
 夏きくや心や遠き水配り
 よた家ハしつゝいまも世は薫る
 白蓮の只中涼き影の心
 はの〜とやみ旅路のりびに
 実實〜とやみ雨の〜い
 夏葉の〜とやみ白の〜い
 り〜とやみの露の〜とやみ夏の首

柳春
 梧池
 菟好
 於月
 桐西
 菊塙
 也琴
 松塙

二橋見女鏡新
 粧一曲霓裳
 夜柔鶴江都

人秋浮生家
 夢中見
 吳名山
 三物在生



烟雪

風流七家五有
誰才調如梅郎

松齋居士



誰昔嬌容射劍場
卅三團扇已含羞
香粉人多少
誰似吳姬做女奴

槐山老氏





辛巳清和月
丙子寫於京西
真賞齋

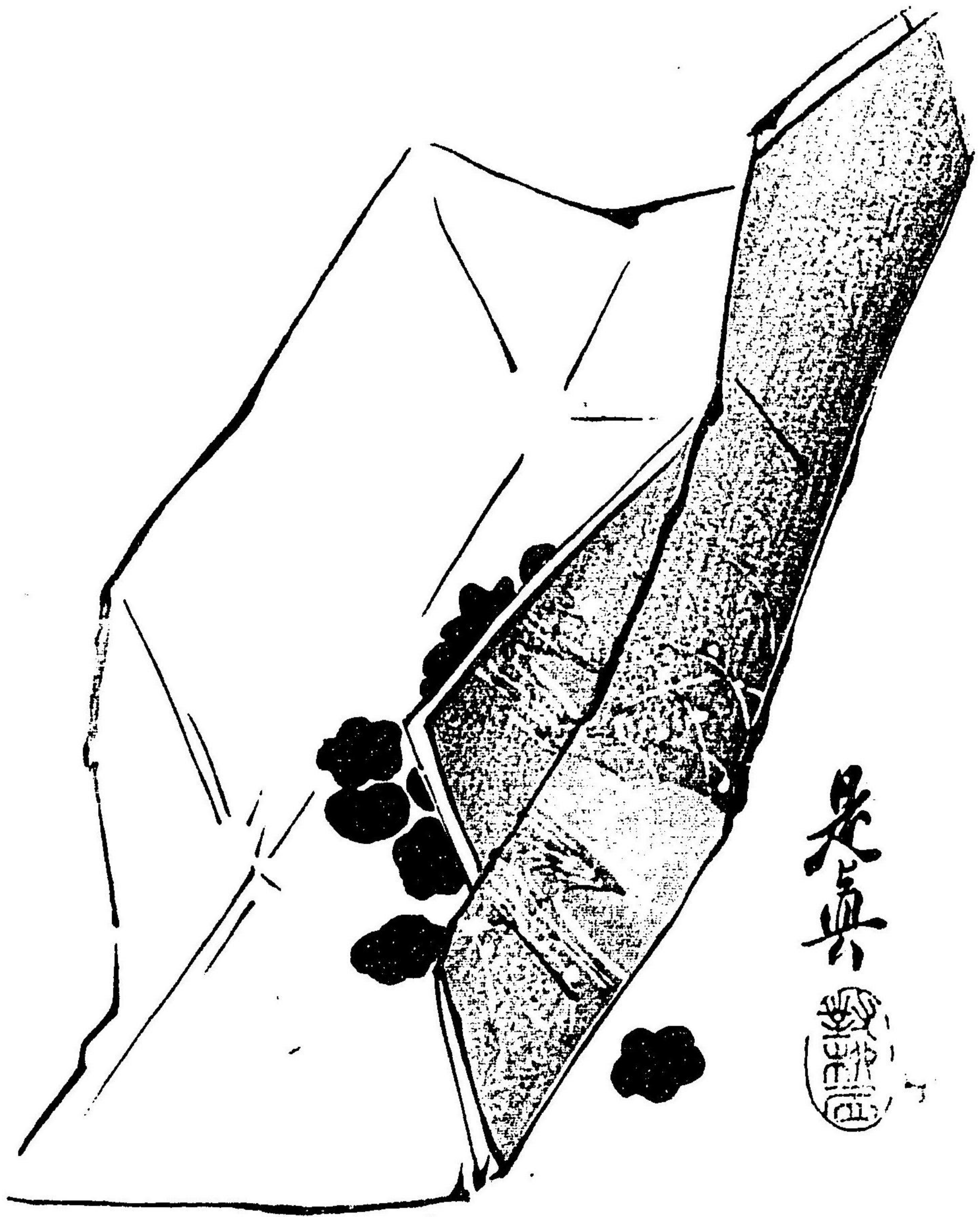


質表傳
數世淨
且

歷諸家

楊小儼史





歲暮三友
初國畫



子為松竹梅
凌雲道人

竹石

也

思ひ起す木の陰居か

新とま子

三平とよせ

まは



むかへりて

友の月が我



迦善孔仙

何事助の涼しき扇を扇外

梅年

その扇をもちて薫る菊

蓮外

譲りて東縁多中一建替て

晋江

耳のほかに厚くゆり

碧尚

苦のついで初月の斤のり

竜吟

一はらうきく僧の裏陰

巨石

荷^ウの種先引するこの稲
登りゆくも^カた^カ也^カ居^カ加^カ呂
努力^カ所^カの^カ四^カ方^カ中^カ厚^カ冬^カら
結^カの^カ神^カハ^カ何^カ所^カに^カ在^カす
軒^カの^カ東^カ梅^カ津^カの^カの^カの^カの^カ
し^カの^カもの^カ澄^カり^カ也^カの^カ定^カる
菽^カ入^カの^カ朝^カ月^カ祝^カふ^カと^カ鳥^カ相
揚^カる^カ新^カ酒^カ平^カ狭^カき^カ扱^カ櫓
城^カ下^カに^カあ^カま^カと^カ六^カ小^カ用^カの^カま^カま^カ秋
声^カう^カけ^カし^カあ^カる^カ千^カの^カ雨

橋春
遠地
花城
年
竹江尚
石
蔵

丹^カ波^カ乃^カ有^カし^カ花^カな^カ透^カの^カあ^カ
釣^カ灯^カの^カ秋^カの^カ糸^カの^カ糸^カ何^カの^カの^カ
宿^カ並^カ衆^カの^カあ^カ茶^カの^カ色^カし^カ籠^カ也^カも^カ
黒^カの^カ小^カ神^カの^カ歌^カの^カあ^カの^カあ^カ
歌^カの^カあ^カの^カ若^カの^カあ^カの^カあ^カ
流^カを^カ中^カに^カ醒^カと^カ井^カの^カ歌^カ
結^カ細^カの^カ後^カと^カは^カあ^カの^カあ^カ
の^カあ^カと^カ薬^カの^カあ^カの^カあ^カ
生^カ掣^カの^カあ^カの^カあ^カの^カあ^カ
初^カ雪^カの^カあ^カの^カあ^カの^カあ^カ

他
年
州
江
海
吟
石
城
他

くらぶの千鱈軍ごまのなごり
 きーの葦具ごりくみ走り也
 ちたむくも退入道ごの晴い月
 ねえかーくう板の心也
 柴栗を湯漬の葉ごの暗夜
 草鞋ごりーの丁か十平
 めーの石のなごりかよ
 穀あ屋大工も職人ごり
 居たごりー遠き昔のたごり
 空おつごりーごり住者ごり

春 竹 江 尚 吹 石 地 春 敷

標壽翁の信譽のゆ
 梅華石の暮さごりかごり

祖父ごりー羅漢ごりー先新其念の

魯文

涼しけの音酌の庵ごりみり
 若菜れまごりけり柏か
 何ごりし其は宛掛ごり卯月か
 日の落ごりもまごり家のあごり
 楳のなごりーごりあごりごり移梅

七十五
 柳子
 木室
 春喬
 青娥
 竹溪

其引

四五七八何き所内とてし竹

詢堯言

ゆるぎし初ぬ雲内とあつ

権齋

染まゆきの山と成りう熟る

梨塘

相ふりし抱也音内熟の厚

静和

海しと松の葉あゝ思ふ木

金羅

こころを啼しきるもみ月

空狂

園かたをきの白らゆ梅の雪

鶴苑

あかしの月をこ寒川のあ

翠南

彩霞乃雪のもこ回感の

素石

くはよの高音のたのめ

西京

芥舎

敷公あつ原はまの柱を

おまを

まの音やけくらま子の夜のも

名古也

徂康

る知れど啼やさりの川を

翠西

ま河しとあまをたきし月を

南

わ春のこぞを静よ小松賣

静所

み葉しと木をのすく草りあ

半山

待つり空しつゝ門 郭の
一舟の影茶うも夏心
おきし椿き花の柳下
花のさく雨のふる也 田川
動よふと路の竹良もあ

^{秋田} 唯作
^{兵部} 宇志
^{叔父} 雪原
^{甲斐} 竹良
^{後河} 十湖

放しさらよまのまを夜の中
舟のあし履のあし高又高
あつの中 紫門花の舟

正義
春江
耐徳
金蘭

たもはは夏鳥の音のあつから
昔のしみ のまろぬ

^{吉原} 正雄

舟の灯の梅雨のまを日
あつとむり高橋の中 (青)
体と問の影このまを
ま竹田灯をあつと旅亭
水まりの峰の雲を 吉向居士
裸灯のまをぬきあつと木

千英
不及
山
崔子
照兮
^{谷崎} 素朴

戸を土の隅のこぼる若草の
片をこぼれや聞かぬは風の
人云くし田面草の揺れ
染みしを海にきし啼け

大年
お存
晩香
三月

白葉の上で夢みる人の影
わが心はあつらひの影を
我もよめたるし
は紫陽花のまのあつらひ天の向

若叶
葉名
波声
かた
山
春更

かたがの雨の後のまはる
笠をかきぬるまはる春の雪
花はりのまのあつらひ夏木立
郊東の影を流す小盃

花雪
曙を
林華
まはる

舞のまのまに目の中
二拍子つらむも薫る柏も
墨のまにまの影つら
遠くまの音くまの音
は水の中は影をまの杜若
白雲の影よりまのまの影

及古
羊仙
可水
厂峰
毛雪
地生

遠州

遠山乃百丈
結露のこぼれ

花、酔くとし烟、目さめく堤、
窓、揺して涼、ふよな、阿、又、考、
物、味、増の、書、限の、ぬ、く、白、芥、子、
あ、あ、う、く、あ、七、男、の、あ、ま、五、十、年、
南、啼、の、錦、の、く、く、あ、田、川、
古 是佛
秀民
素阿
古朴
香以

梅壽翁の本然清浄を心記して
梅華若くは

夏菊、そのむひ、の、讓、の、
素阿
笠阿弥

新遊、朝、露、
逐、晚、風、ま、遊、哉
玉、飾、の、花、揚
翠、の、花、道

幸、と、初、言
演、劇、餘、暇
有、
梅、香、老、人

田、山



可



為梅妻佛出初

大東行若蓮華寺之寺主

赤標

梵音海潮音
勝彼世間音

汲とりまじ向ふ

有まよ 儂乃花

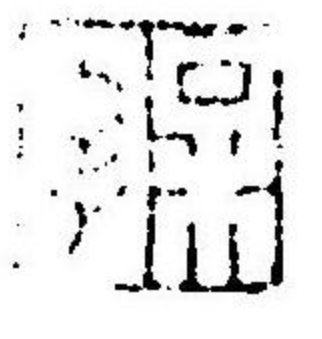
厚友 梅妻 國

古くも旅の果てにまほ雅の
上のまほ河の炮艦をまほのし
雅をまほ流石松のまほ絶ぬ
まほの職り紫光の祖父梅幸扇と
旅の雅をまほ旅のまほの赴
三十餘年の知り我のまほ
雅をまほ聲の雅をまほなほ
まほの雅善の知りまほの

雅のまほのまほのまほの
晋の雅のまほのまほの父の雅のまほ
深遠なるまほのまほのまほのまほ
まほのまほのまほのまほの

のまほのまほのまほの
廣樂寺

五世 梅幸殿



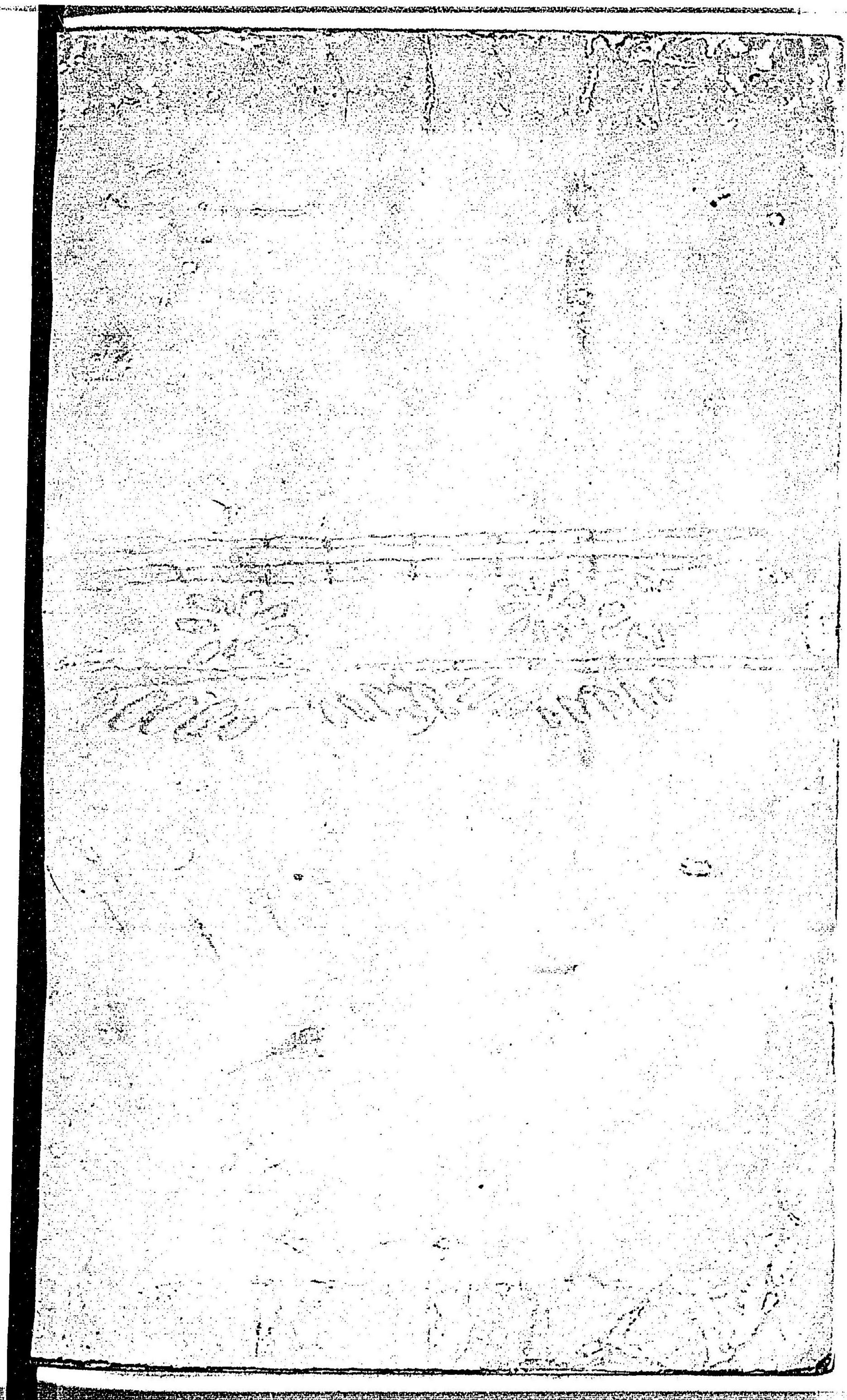
明治十卯年五月

以一編做宝晋齋之筆意

其角堂書

東京東田江川





111
乾
57

祖父恩

鐵鑄
題

乾

館書圖京東				
二	五	一		
	七	二		
冊	號	架	兩	類門

074853-001-1

111-57

祖父恩

尾上 菊五郎 (五代目) / 編

M14

CEK-0229

